

◎調和と希望の仏法 「人間の宗教」の時代へ

人はそれぞれ個性も境遇も違います。悩みも苦しみも千差万別です。しかし仏の眼から見るならば、誰もが生老病死の苦海にある、いじらしい衆生です。その一人一人に、一切衆生の大良薬たる妙法を与えるのです。粘り強く、生命の共鳴板に呼びかけていくのです。

(『調和と希望の仏法 「人間の宗教」の時代へ』 44 ページ)

◎高橋殿御返事 (米穀御書)

「仏種は縁より起こる。」

(御書新版 1953 ページ・御書全集 1467 ページ)

◎調和と希望の仏法 「人間の宗教」の時代へ

仏性を薫発する下種結縁という「縁」が、どれほど大切か。相手の生命に必ずある仏性を呼び覚ますには、仏種を植えるしかありません。仏の性分は、仏縁によって発動するからです。だからこそ、仏法対話をするのです。それが必ず、相手の仏性を呼び覚ます最極の縁となるのです。

(『調和と希望の仏法 「人間の宗教」の時代へ』 46 ページ)